

社会に貢献できる会社を作ろう —企業家教育の観点をもった総合的金融教育の試み—

(総授業時数：23 時間)

実施学年、教科等

第1 学年～第3 学年 総合的な学習の時間

単元の目標

- (1) 福祉、環境など解決の迫られている領域において、地域や学校の実情に合わせてテーマを発見させ、その解決のための企業作りを実際に行わせることを通して、主体的に学ぶ態度を身に付けることができるようにする。
- (2) 教科横断的な学習内容を、外部講師の助力などを得ながら、自分たちで取り組む中で、企業家精神を身に付けるようになるとともに、すべての活動の基盤に金融活動が関連していることに気付くことができるようにする。

学習の評価

- (1) 福祉、環境などで地域や学校が抱えている問題を発見し、その問題解決のための方法、リサーチの仕方、プレゼンテーションの仕方や技能が身に付いているとともに、問題解決に主体的に取り組む態度が育成できている。
- (2) 問題解決のための取り組みの中で起業に対して興味、関心が高まるとともに、企業の役割や社会的責任について理解ができ、すべての活動が金融と密接に結び付いていることが理解できている。

(テーマごとの簡単なリアクションペーパー)

展開の特色

- (1) 本授業案は、総合的な学習の時間における金融教育の一環として企業家教育的な側面を重視した学習プログラムの開発を目指している。なお、本展開では起業家教育、アントレプレナー教育などを包摂する企業に関連する教育という広い概念として企業家教育という言葉を使用している。
- (2) 公民科「現代社会」における探究学習と関連させ、テーマを福祉や環境、情報、国際化、地域の活性化などから選択させるように配慮している。
- (3) 株式会社の設立など法律的な側面もあわせ学習することで、法教育との融合も目指した総合的な金融学習となるように配慮している。

その他

- (1) 教員だけで指導するのではなく、可能な限り外部の専門家を招いて共同での指導ができるように留意する。
- (2) 商品の作成や販売を行わせる計画となっているが、テーマによっては不可能なものもあるので、学校や生徒の事情に応じて適宜配慮して取り組ませる。

「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

* 記号については、P.32～45 を参照。

B-I・E、C-A、D-I・U

学習内容のキーワード

企業設立、経営、資金調達、会計、株主総会、リサーチ、事業評価、起業家、企画書、プレゼンテーション、販売、活動報告、収支報告

1 金融教育のねじりと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に際して

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

●指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(教科等との関連)
1	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会で何が問題かを考えさせる。 地域の課題を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境、福祉、情報、国際という現代社会が直面している課題を解決するため、または地域の活性化に役立つために企業を立ち上げるという課題に関して問題提起の講義を受ける。 自分たちにとって最も解決を迫られている課題はなんだろうかというテーマで、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆一見すると直接金融と関連のない領域のように見えるが、社会における活動は何らかのかたちでお金と関連していることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★講義およびグループによる話し合い。 ★それぞれの分野で何が解決しなければいけない問題かを明確にする。 ★最初は講義形式なので資料は教師が用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会」の探究学習との関連を考慮する。
2 3	<ul style="list-style-type: none"> なぜ企業なのかを考えさせる。 企業設立の知識をもつようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非営利団体(NPO)ではなく、企業を設立して問題を解決しなければいけない理由をグループで考える。 ・株式会社を設立するための法的な条件や、経営に関する知識を講義を通して得る。資金調達、資金繰り、会計の知識などを学習する。 ・企業設立の条件を知った上で、会社設立の株主総会を開催する。その際、企業内での役割をグループ内で割り振りをして、自分たちで運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆資金調達、決済などに金融機関が関係することを確認する。 ◆会計学や企業法学、労働法制の視点も重視する。 ◆固定費、変動費、損益分岐点などの概念を紹介しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ★講義およびグループによる話し合い。プリントによる演習。 ★普通高校での学習レベルを超える部分も一部含まれるので作業プリントを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の学習の成果を踏まえる。 ・『金融教育ガイドブック』P.214～参照。
4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> アイデアをまとめてゆく技法を習得させる。 役に立つ製品やサービスは何かを考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KJ法によるブレインストーミング、アイデアの出し方、まとめ方の方法を講義を通して学ぶ。 ・1時間目に話し合った解決を迫られている課題に関して、それを解決するための製品やサービスをグループ内でのブレインストーミングで出し合う。それをKJ法でまとめ、アイデアを絞り込む。 ・アイデアを出すには、以下の条件を考えさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・何を開発するか・なぜそれが必要か・誰が使うものか・どこで使うものか・いつ使うものか・どのような方法で使うものか・開発にはどのくらいの予算が必要か・いつ販売するのか、など。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆学ぶ技術を身に付けることも金融教育の大事な要素である。 	<ul style="list-style-type: none"> ★講義およびグループによる話し合い。インターネットによる調査。 ★KJ法に関する方法の資料、作業のための用紙、付箋などを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報での学習との関連に考慮する。 ・『金融教育ガイドブック』P.288～参照。
8 9 10 11	<ul style="list-style-type: none"> リサーチの方法を習得させる。 本当に必要な製品やサービスは何かを調査を通して考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絞り込んだアイデアが既に世の中で製品化されていないかどうかをインターネットによって確認する。もし、同一のものがあつたら、ブレインストーミングを再開する。以下同じことを繰り返す。 ・アイデアが本当に価値のあるものかを、価格・安全性・品質・便利さ・オリジナリティなどの観点からもう一度振り返る。 ・出たアイデアが本当に必要とされるものか、教室を離れてインタビューや実地調査などのリサーチをかける。その際、消費者のニーズを確認するためのアンケート用紙を作成する。 ・調査の場所、対象となる人、企業などをあらかじめ考えて、グループ内での役割分担をしながら実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆マーケティングの発想や技法を取り入れる。 ◆データ集計の方法や技能に関する知識を紹介しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループによる実地調査もしくはインターネットを通しての調査など。 ★実地調査する場合は、調査先などとのコンタクトをあらかじめ取るようにしておく。 ★調査時のマナーやルールなども事前に指導しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携に配慮する。
12 13	<ul style="list-style-type: none"> 事業評価の必要性を理解させる。 リサーチの結果分析の技法を習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチの結果集計分析を行う。 ・その結果を踏まえて出たアイデアをさらに検討し直す。事前の予想と同じ結果であれば、さらに具体的に商品化の計画を推進する。 ・リサーチ結果が思わしくない場合は、再度アイデアから練り直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆意思決定のプロセスの吟味の段階であるので、必ず時間をとりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループによる話し合いと調査。 ★一番詰まってくる段階なので、外部の専門家の助力などを得るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部専門家の協力を得る。

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育のねらいと目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育のねらいと目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(教科等との関連)
14	<ul style="list-style-type: none"> 起業者とは何かを考えさせる。 現代における起業者の意義を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ここまでの学習成果を確認し課題を再確認するために、実際に企業を立ち上げた経営者の話を聞く。 起業者とはどのような人かを確認する。 起業者がどのようにアイデアを出し、それを実現させていったのかを、講演から確認し、自分たちに足りなかったところ、これから用意しなければならないことをピックアップする。 現在取り組んでいる課題に関して、なぜ企業なのか、なぜその製品やサービスなのか、その意義について講演を通して再確認する。 起業者の資質についてグループで話し合い、現代における起業者の役割や必要性を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆起業者として必要な資質を理解させ、それが単に企業を立ち上げるだけでなく、その精神があらゆる場所が必要であることを確認させたい。 ◆アイデアの出し方だけでなく、資金調達の方法、金融機関との付き合い方など生々しい事例を通して実感的理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ★講演を聞く。グループによる話し合い。 ★生徒の取り組み状況を踏まえて、企業家との連絡を密にして、講演の内容を確定してゆく。 ★場合によっては、課題へのモチベーションを高めるために、第3時の時間帯で講演してもらってもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の経済団体、金融機関と連携する。
15 16	<ul style="list-style-type: none"> 企画書を書くことでアイデアを具体化させる方法について習得させる。 	<ul style="list-style-type: none"> アイデアをA4版一枚の企画書にまとめる。(※資料参照) 企画書は以下の項目が必要であることを確認する。 提案の背景・提案の目的、理由 企画の概要・それを実現するためのスケジュール・実施するための体制・資金計画・収支の見積もり・補足資料 企画書と並行して、プレゼンテーション用の資料を、グループ内で役割分担しながら用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆投資家や銀行に融資を依頼する場合の企画書として位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループによる作業学習。 ★パソコンソフトなどの使用に関してあらかじめ知識を与えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の授業との関連を配慮する。
17 18	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション大会を通してプレゼンテーション能力を習得させる。 プレゼンテーションを評価することで、聞く力を養わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品、サービスに関してのプレゼンテーションを行い、評価を受ける。 プレゼンテーションは、各グループ持ち時間10分以内、質疑の時間を設ける。 前時に作成した企画書を参加者に配付するとともに、パソコンソフトを使って説明する。 参加者は、企画の内容を聞き、それを吟味し、質問をして、評価する。 外部講師の講評も受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆企画内容が明確か、実現可能か、企画書に十分情報が入っているか、実現するためのスケジュールなどは大丈夫か、資金計画などは現実的かなどの観点から吟味することで、投資や融資が可能かどうかを判断させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループによる発表。 ★クラス合同で、発表、質問、評価を行うとよい。 ★外部講師からの助言も得るようにする。外部講師との連絡、発表会場の確保、時間割の変更などを配慮する。 ★評価用紙なども準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業とするとよい。 地域の経済団体、金融機関などと連携する。
19 20 21 22	<ul style="list-style-type: none"> 製品の作成、販売(選択)を通して自らの企画を実践できる能力を養わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表した製品やサービスを具体的に作成、運用を試みる。場合によっては、商品の仕入れ、販売を行う。 企画書に従い、グループごとに役割分担をして実行する(プレゼンテーション大会で企画を一本に絞った場合は、その企画に関して、グループを再編成するなど、新たな対応を行う)。 途中で何度か作業の点検の時間を設けて企画案を修正しながら実行するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆資金は実際に投資を募ってもよい。 ◆キャッシュフローなどの点検、管理にも注意を払うように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループによる作業活動。 ★文化祭や、地域での発表会、フリーマーケットなどへの出店を試みる。 ★発表場所の確保など条件作りを試みる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭での販売などの場合、学校行事での方針との関連に配慮する。
23	<ul style="list-style-type: none"> 株主総会を実施することを通して、活動を総括する力を養わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設立した企業の株主総会を開催し、それまでの活動を総括する。 総会では、これまでの活動報告、収支報告を役割に応じて行う。 今後活動をどうするかを提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆配当、金利などの計算もきちんと行わせる。 ◆可能であれば、財務諸表を作成させてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★グループによる発表。 ★これまでの授業を振り返らせて、成果を確認する。 ★総括のための用紙、アンケートなどを用意する。 	

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

●教材・資料等 (授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

つえ 杖 ~ Fanta 素敵 ~

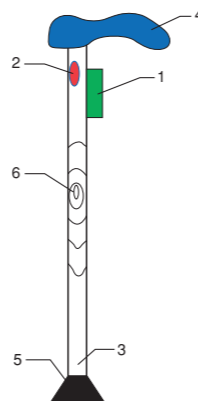
Presented by 6 班

ビジネスをする目的

超高齢化社会日本。現在の高齢人口（65歳以上）は2,431万人で総人口の19%にあたる。これは全国平均であって島根県ではすでに4人に1人の割合。百歳以上の人口も2万人を突破しこの40年間でなんと134倍に。この増え続ける膨大な人口を消費者とせず誰を消費者とするだろうか。我が社は高齢者の健康の増進を目的とする。安全に外出してもらうことにより心のリフレッシュ、そしていつまでも若い心をもってほしいと願う。

製品紹介

- GPS 搭載携帯電話内蔵。
 - ・介護者に情報送信
 - ・操作不要の音声道案内で迷子を防止
 - ・大きなボタンと大きなディスプレイで簡単操作
 - ・シンプルなつくりで無駄な機能なし
 - ・ボタンひとつで緊急連絡
- 音センサー機能
 - ・クラクションなどの特定の音をセンサーが感知。振動や光に変換して知らせられる。
- 杖の先端が真空構造でショックを吸収。手首、肘、肩、腰の負担を和らげる。
- 持ち手の部分は形状記憶型低反発素材で手に完全フィット、力を分散。抗菌+汗も吸収。
- 杖先が安定の幅広設計。テニスシューズ会社がけたクレーブラバー × EVA スポンジ底。
- 強度 & 軽量設計のアルミ素材。目に優しく安心感のある木目模様。長さ調節自由自在。



販売方法

1. 自宅で通販。カタログ取り寄せ無料・電話一本。
2. インターネット販売。送料無料。
 - どちらにせよ無料お試し期間あり。また、購入以外にもレンタル制度を設け、気軽に使えるようにする。

提供価格

2万9,800円 (デザインや材料仕入れなどを自分たちで行いコストを軽減させる)
 レンタル制度: 1週間コース= 1,500円・2週間コース= 2,800円・1ヶ月コース= 5,000円

資本金

銀行や契約提携会社などから初期援助金を貸してもらう。また、消費者にも広く宣伝して、株式を発行する。イベントを開催し、そこで得たお金を資本金にもまわす。

(注) 生徒作品。